第２学年道徳科学習指導案

指導者 平川　翼

教材名：ライバル

主題名：（Ｂ　友情，信頼）

学年・組　第２学年１組　（男子２０名女子１６名　計３６名）
場　　所　２年１組教室（本館東側３階）

主題観

「真の友情」は，相互に変わらない信頼があって成り立つものであり，相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは，相手の人間的な成長と幸せを願い，互いに励まし合い，高め合い，協力を惜しまないという平等で対等な関係である。分かち合い，高め合い，心からの友情や友情の尊さについて理解を深め，自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にする態度を育てることが大切である。

小学校の段階では，特に高学年で互いに信頼し学び合って友情を深め，異性への正しい理解とともによりよい友達関係を築くよさについて学習している。

中学校の段階では，友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であること，互いの個性を認め，相手への尊敬と幸せを願う思いが大切である。友達であるからこそ，悩みや葛藤を経験し，共にそれを乗り越えることで，生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができるという自覚が重要である。そのうえで，人間として互いの人格を尊敬し高め合い，悩みや葛藤を克服することで,より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育んでいくことが肝要である。

教材「ライバル」は，啓介と康夫は仲のよい友人であり，水泳のトップを狙うライバルでもある。しかし，啓介はなかなか康夫に勝てずに悔しい思いをしていた。ある日，康夫が突然重い病気になり入院する。啓介はライバル不在でトップに立つ可能性が出るが，良心の呵責に悩む。一方，康夫は絶望感から啓介の見舞いにそっけない態度をとったことを後悔し，手紙を書くことにする。葛藤しながらも，互いに信じ合い，認め励まし合うことでより強い友情が育まれるという，真の友情について深く考えられる教材である。

生徒観

本学級の生徒は，「道徳の授業は好きですか」という質問に対して肯定的評価 82.1%，否定的評価 17.9%と，肯定的評価をする生徒が多い一方で，クラスの約２割の生徒が道徳の授業に対して意欲的に取り組めていないことが分かる。また，「道徳の授業では，自分のことを振り返りながら考えていますか」という質問に対しては，肯定的評価 75%，「道徳の授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしていますか」という質問に対して肯定的評価 67.7%であった。道徳の授業を通して，自分のことを振り返ったり，考えを深めたりしようとしている意識があることが分かる。

本時の内容と関連して，「信頼」についての質問の回答は次のようであった。

質問内容	あてはまる(%)	どちらかといえばあてはまる(%)	どちらかといえばあてはまらない(%)	あてはまらない(%)
友人を信頼している	57.2	35.7	7.1	0
友人から信頼されている	25	57.1	17.9	0

上記の結果からどちらの質問に対しても肯定的評価をする生徒が多い一方で，質問項目ごとに詳しく見てみると，「友人を信頼している」に対して，「友人から信頼されている」は数値に差がでていることがわかる。

体育大会などの行事を通し，相手の立場やおかれている環境を尊重して，協力する心情も培われてきている。しかし，まだまだ未熟で自己中心的な考え方の生徒も多く，相手のおかれている状況を想像したり，おかれている立場を理解したりすることができず，傷つけてしまう言動を行う場面も見られる。

指導観

人間の社会は,互いに協力することによって望ましい社会生活が営まれる。その中で生じる友情は,互いの個性を尊重し，支え合い，競い合い，高め合うことによって深まっていく。豊かな人間関係を築くためには，その場だけの関心や自分に都合のよい相手とだけの狭い交流にとどまることなく，さらに視点を広げ，積極的に生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情について考えさせたい。また，中学生の時期は，自己中心的な言動によって友人関係が崩れたり，孤立を避けるため相手の言動を無条件で受け入れたりするなど，表面的な付き合いになりがちである。そして，本当の友達とは，互いに励まし合い，高め合えるような存在であることは頭では理解している。そこで，充実した生活を送るためには,学級や部活動などで互いに切磋琢磨しながら困難を乗り越えることが大切であることを,実感させるような指導にしたい。

授業の中で,「啓介と康夫の心の葛藤」を双方の立場・考え方に共感させ，そのことを通して，真の友情について考えを深めさせたい。また,「真の友情」についてはじめに考え，教材や他者の考えに触れ，再度「真の友情」について問い，自分の考えの深まりを実感させたい。

本時の学習

（１）本時のねらい

啓介と康夫の心の葛藤を通して，真の友情について考えようとする実践意欲と態度を育てる。

（２）評価

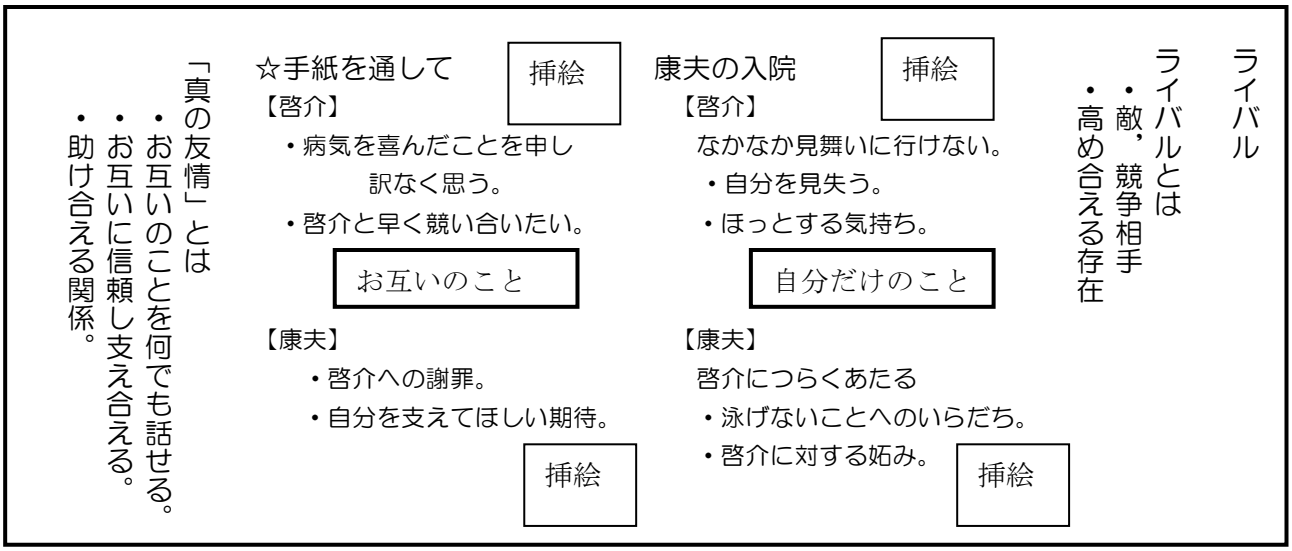
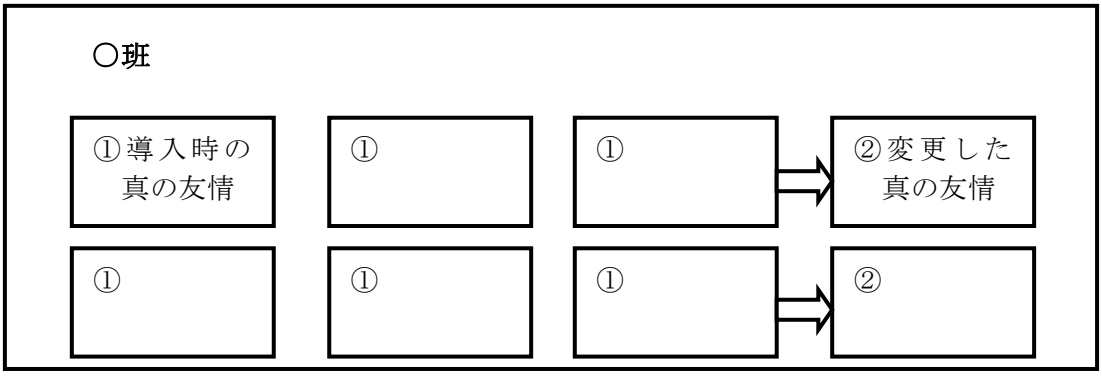
啓介と康夫の葛藤に共感することができている。
他者の立場に立ったとき，どのような行動が最善であるか，自分なりの考えを示している。
（ノート・ジャムボードの記述と授業での発言で評価を行う。）

（３）本時の学習展開

	学習活動	主な発問・予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 （５分）	1. 内容項目について考える。	○事前アンケートの結果を開示する。 ・「友情」についてジャムボードに記載する。	・これまでの自分を見つめる。
展開 (40 分)	2. 教材の状況について理解する。 3. 主人公の気持ちを考える。	・朗読音声を聞く。 ・教材の登場人物やあらすじなどについて確認する。 ２つの場面の二人の主人公の気持ちを考える。 ①康夫の入院 ○啓介が康夫の見舞いになかなか行けなかったのは，どんな気持ちだったからだろう。 ・康夫の入院にほっとする気持ちが芽生え，自分を見失っていることを見せたくなかったから。 ・醜い心を康夫に見抜かれてしまうのが怖いから。 ○見舞いに来た啓介に対し，康夫がつらくあたってしまったのはなぜだろう。 ・啓介が自分の病気を喜んでいるように思えたから。 ・泳げないことへのいらだちを啓介にぶつけたから。 ②手紙 ◎「このままではいけない」と考えた康夫が，啓介に対して伝えたかったことは，どんなことだろう。	・挿絵を示す。 ・そう判断した理由についてノートに記述させる。 ・生徒の考えを交流させて，様々な角度から考えを深めさせる。

		・自分を心配してお見舞いに来てくれたのに，弱音を吐いてしまい，すまなかった。 ・これからも親友として支え合っていこう。 ○康夫からの手紙を読んだ啓介は，どんな気持ちになっただろう。 ・実はほっとしてしまった自分がいた。康夫の気持ちを知らずに，こちらこそ申し訳なかった。 ・早く病気を治して，また一緒に競い合おう。	
	4. 自分のこととして考える。(ノート) 5. ジャムボードを使い班で交流する。 6. 全体共有	○「真の友情」ってなんだろう。 ・お互いのことを何でも話せる。 ・お互いに信頼し支え合える。 ・助け合える関係。 ○班員と「真の友情」についてジャムボード活用し交流する。	
終末 （5分）	7. 今日の学習を振り返る。	○今日の学習を通して考えたことを書こう。	・授業を通しての変化や考えの深まりを自覚させる。

（4）板書計画



ジャムボード